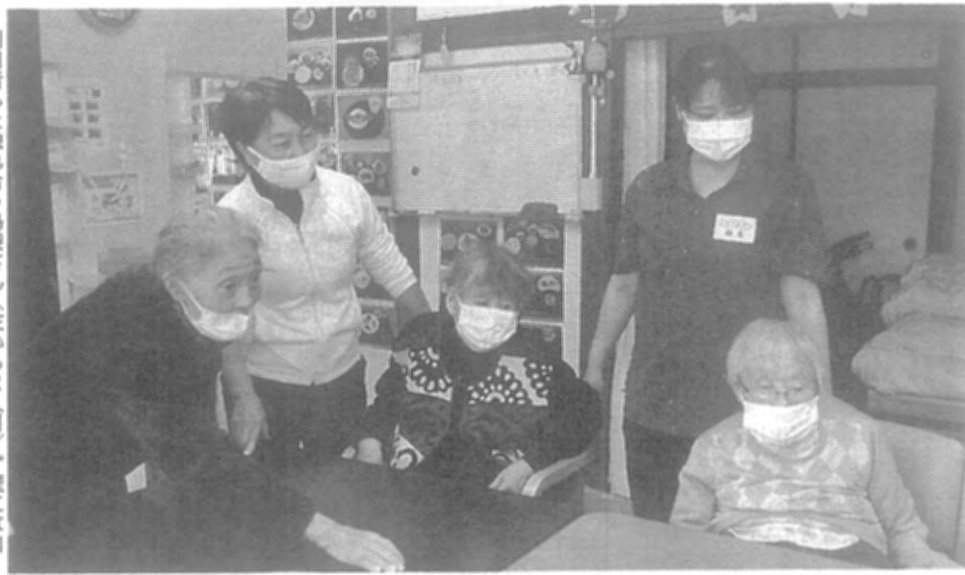


「地域思いの仕事」広がれ

労協法が成立

労働者協同組合（労協）が法人格を持てるようになる労働者協同組合法が成立した。労協は介護や子育て支援など



利用者らと触れ合う島袋さん（左から2人目）。壁には自慢の食事を写真で紹介している（埼玉県ふじみ野市で）

デイサービス、家事支援…

埼玉・ふじみ野市
「そらまめ」

困り事解消へ

法整備進めば 行政と連携も

地域を支える仕事を担い、全国で数万人が働くことされる。地域に必要なデイサービスを運営し、食事に使う野菜を自ら栽培する埼玉県ふじみ野市の労協「そらまめ」取材した。（石川大輔）

▼一面参照

そらまめは、出資者でもある組合員15人が自ら働く労協だ。デイサービスの食事は手作りにこだわり、材料の野菜は隣接する農園で栽培。利用者は菜しみを兼ねて畑仕事を体験する。通常のデイサービスでは手間がかかる農園を持つことは少なく、組合員の思いが事業の方針を決める労協ならではの活動だ。

組合員として働くのは、看護師や地域の主婦。他にも東日本大震災からの避難をきっかけに移住した人や、引きこもりから脱した人など、そらまめの在り方に賛同して多様な人が集まった。1人5万円の出資金で加入し、1人1票の議決権

る。「例えば、あそこのおじさんが体が動かしにくくて困っている」といった話を聞くと、何とか支えられないかと考える」（島袋さん）。実際に、掃除など高齢者の日常の手伝いを30分間750円で引き受ける仕事も始めた。

地域住民が事業を支えてくれるのも、労協ならではだ。長年交流している人や利用者の家族が気軽に野菜作りを手伝ってくれる。移転などで費用が必要だった時は「協力を」を買って応援してくれた。「地域を支える仕事」が地域に支えられる

形が自然と出来上がった。

◆ 今後、労協が法人格を持ち、認知度も高まることで行政との連携もしやすくなる。日本労働者協同組合連合会埼玉事業本部の藤谷英樹本部長は「地域の支援や活性化につながる仕事、より活発に生まれてくる」と期待する。

島袋さんは「人の困り事を仲間と解決するとき、労協の仕組みが役に立つ。地域に必要な仕事は多く、もっと多くの人に協同労働を始めてほしい」と願っている。